

---

# ガラスの翼

大華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガラスの翼

### 【Nコード】

N2352D

### 【作者名】

大華

### 【あらすじ】

夜の世界「水商売」に飛び込んだ！！遅咲きアユ！カズとの出会いで運命が・・・

## 第一章 平凡

私の名前は「ayu」

職業「ホステス」

毎日を ただ 淡々とやり過ごし、平凡な日々を送っていた。

そんな私の人生が、ある男性との出会いで大きく変わって行った。

彼の名前は「kazu」。職業・・・「極道？」

彼の過去には「震災」と言う恐ろしい出来事がつきまとっていた。

心に傷を背負い、闇からの出口を見つけられずにいた「kazu」。

これは、お互いを必要としていた、あの頃の私達の物語・・・

【ガラスの翼・・・出会い・・・】

それは、偶然の出来事から始まった・・・

「アユさん」

スタッフの声が・・・

「新規のお客様なんですが、よろしいですか？」

「うん いいよあ」

私はすぐに席に向かった。

「初めまして アユです」

新規のお客様に対して、最高の笑顔で挨拶をする私。

それに対して彼は、少し微笑んだようにも見えたけど無表情・・・

「ふう・・・」心の中でため息をついた。

こりゃあ一人じゃきついなあ・・・よし！

「他の女の子も呼びますね」

そう言い終えて、他の子を呼ぼうとした瞬間

「呼ばなくていいよ!!」

えっ???なに、この人????

「はあああ・・・」心の中でまた大きなため息・・・

そして彼が次に言った一言

「お前だけでいいから」

えっ??? お前だけでいいって・・・

意味わかんないんだけど????

なんだかすごく難しそうだなあ。この人・・・

こういう人にはどう対応したらいいんだろう？

頭の中の引き出しを探し回って、やっと口に出た言葉が・・・

「お名前お聞きしてもいいですか？」

「・・・・・・・・・・。」

無言の返事が返ってきた・・・。

そうくるかあ！よーっし！

私も本気スイッチ全開だあーっ！！

「・・・カズ」

ボソッと彼が一言。

何だか調子くるうなあ・・・

「カズさんって呼びますねっ」

「ええよ・・・」

ええよってそれだけえ〜！！

何とか会話を続けて盛り上げなくちゃ！！

「あっ！関西の方なんですネえ！お仕事で来てるんですか？」

しまったあゝ！！すごくベタな返しだあゝ

ああ引き出し足りない！私のバカあゝ！！！！！！

そんな私に対して、彼は

「あのさあ、何も言わなくていいから、俺を見て飲んでくれないか！話がしたい時は俺から話すから」

撃沈・・・・・・・・・・

「はい・・・」

分かりました。でも私がダメなら他の女の子を・・・」

と言いかけた私に

「いや、俺はお前がいい！

お前がイヤなら別にいいけど・・・」

「私は構いませんよっ」

笑顔で答えただけ私の本気スイッチはちょっと切れかかっていた。

どうしたらいいんだろう・・・

ん・・・ますます難しいぞお「カズさん」。

しばらく沈黙が続いた・・・

どうしよう、この空気・・・

はああゝ。

すると！彼が突然

「このタバコ置いてる？」

差し出した銘柄は珍しいものでお店には置いていなかったのですが

なんと！そのタバコは偶然にも私と同じ銘柄！！

その瞬間！ぎこちない空気が一変。

こんな偶然もあるんだあ・・・

よかったあ、このタバコ吸ってて！

私は心の中で、この偶然に感謝した。

「ありますよ。これですよね」

私はすぐにタバコケースから取り出し

「私なのですが、いいですか？」

と言って渡した。

「おお！初めてだよ、このタバコ吸ってる人と逢うのは」

それを聞いて、私のテンションはグイグイ上がり

「そうでしょう！」

「私も同じタバコを吸ってる方と逢うのは初めて！」

よかったあああ。

神様 ありがとう

やっと笑ってくれた彼を見て、ほっとすると同時に嬉しさがこみあげてきた。

そんなやりとりの後、急に彼が

「あーーーーー！」

「よしっ！終わりやつ！！」と・・・

ええ・・・！？何、突然？終わりって！？

なにになに？もう帰るってこと？私何か気にさわったことしちゃったかなあ・・・？

でも、さっき笑ってくれたし・・・

そんな私の不安は、次の一言でかき消された。

「自分、アユって言うんやなあ。もう硬い話し方は終わりや！（さん）もいらん！カズでいい！」

そして彼は、今までとは別人のように話し始めた。

「今日は色々ありすぎて、頭切り替えるのに時間がかかりそうやったけど、アユと出会えてすっかり切り替えができたよ」

今まで難しそうな顔をしていた彼が笑顔になったのを見て私も今までの不安が消え去り

「カズさん！女の子呼んで楽しく飲みましょう！」と切り出した。

すると、さっそく彼の突っ込みが入った！

「だから（さん）いらんし！！それと・・・アユだけでいい！！！」

あれれ・・・そうなんだあ。。

「じゃあ2人で楽しく飲みましょう」

もう大丈夫！私の不安は完全になくなっていった。

よあーし！この調子で頑張るぞあー！

そんないつもの調子が戻ってきた矢先に・・・

「アユさん」・・・スタッフの声。

タイミング悪すぎ！！

他のお客様が来たのだとすぐに分かった。

スタッフが耳打ちで話だすと彼は、一気にお酒を飲み干し席を立った。

驚いた表情で彼を見た私に

「今日は楽しかったよ。俺帰るから早く行つて来いよ」

全ての状況を把握し、私に気を遣ってくれたのだった。

「そんなぁ　せつかくこれからなのに・・・すぐに戻りますから、待ってて・・・」

「いいよ帰るから気にするなよっ」

彼は、今日最高の笑顔で言った。

「・・・分かりました」

急に寂しさがこみ上げてきて

彼ともつと話したいな・・・

他の席行きたくないな・・・

そんな気持ちになってしまった。

この不思議いっぱいの「カズ」に すっかりペースを乱されいつの間にか「カズワールド」

にハマッテしまっていたのだった。

お店の外まで彼を送り出し

「今日は、どちらにお帰りなんですか？」と問いかけてみた。

「いつものホテルだよ あはは」

いつものホテルって・・・「冗談交じりの彼の言葉に

「分かんないよっw」と軽くすねて見せた。

「だねっ」

だね！って・・・

あゝあゝもう来てくれないなあ

今までの経験上、私はそう思った。

そんな私の思いとは裏腹に

「アユ！また来るから電話番号教えておくよ！」

そう言うと、彼がポケットから携帯を取り出した。

「ああ！その携帯アユのと同じだよ！色も！！」

「そっかあ偶然が2回続いたかあ！もしかして、3回目もあるかなあ」

「はいっ あると思いますよっ！！」

私は嬉しくて 少し興奮気味に答えた。

彼を乗せたタクシーが走り出し、その姿が見えなくなるまで見送っていた。

きつと また逢えると思いながら・・・

これが、私と彼との出会いだった。

私は、ごくごく普通の高校生活を送ってきた。

友達もそれなりにいた。真面目な子もいれば、そうでない子もいた。でもどちらに染まる事もなかった。

悪い事に対する色々な知識はあったけど、何もしなかった。・・・  
っていうか出来なかった。

頭でっかちなだけで、そんな勇氣なんてなかったし  
バカらしいと、大人ぶっていたのかもしれない・・・

将来の夢や目標もなく、やりたいことを見つけれないまま、ただ  
ただ時間だけが流れてしまったように思う・・・

その結果、先の事を真剣に考える事もなく、卒業を迎えてしまった。

「なんとなく生きていけたらいいやあゝ」

自分に言い訳するように、最後の教室を振り返りつぶやいたのを覚えてる。

卒業しても、やっぱりやりたい事は見つからなかった。

ただ・・・お金は欲しかった。

時給のいいバイトとなると・・・

やっぱり、イベントコンパニオンや水商売！

幸い！私の容姿は、それほど悪くはなかった。

女を武器にする仕事は、やっぱり一番いいお金になる。

イベントコスチュームを着て、笑顔で手を振っていれば、それなりのお金が貰えた。

お母さんが見たら泣くだろうなあ・・・

そんなバイトをしながら毎日遊びまくっていた。

そして、二十歳になった頃、友達に誘われ水商売の道に足を踏み入れた。

夜の街！六本木での「クラブホステス」・・・

まず最初に、想像していた世界とは全く違っていた事に驚いた！

すごく上品で綺麗な女の子ばかりの世界！！

頭の回転は速いし、どんな会話にも対応できる知識レベルの高さ！

やばい・・・私ついていけない・・・

ああ～毎日TVのニュースくらいしか観てないよぉ～

新聞くらいはちゃんと読んでおけばよかった・・・

ホステスなんて、適当に笑ってお酒作ってたらいいんだ！

などと簡単に考えていた自分が恥ずかしくなった。

そこで最初に出会った、夜の世界のお姉さん

彼女の名前は「トモミ」

私の仕事は、ヘルプといってトップクラスの女の子のサブ。

簡単に言くと「お手伝い？」から始まった。

その時から私は「アユ」と名前をつけてもらい日々、勉強と驚きの毎日を過ごしていた。

私は「トモミさん」のヘルプをしながら色々な事を学んだ。

私がヘルプをしていた「トモミさん」はお店で人気 NO.1ホステス！！！！

トモミさんに会いに来るお客様は、一流企業の社長さんや芸能関係の人など、とにかくすごい人ばかり。

どのお客様に対しても、なんなくこなしちゃう素敵な女性で、プライベートでもよく面倒を見てくれて、実のお姉さんのような存在だった。

初めてこんな女性になりたいと憧れた女性。

そんなトモミさんにいつも甘えてしまっていた。

彼女がお店を辞めるまでは・・・

## 第二章 妄想

そして今の私は、忙しく時間に奪われる日々を過ごしている。

ふとした瞬間に

「自分の時間が欲しい・・・」

とため息混じりの言葉がでてしまう。

そんな中で、今の楽しみは、

カズ・・・来てくれないかなあ・・・と願うこと！

逢いたい・・・

電話・・・

なぜ出来ないんだろう？他のお客様だったら出来るのに・・・

彼は今、何処で何をしているんだろう・・・

私の中で彼の存在が日増しに大きくなっていった。

何処の誰かも、職業も分からないのに、勝手に自分の頭の中で妄想して楽しんだり・・・

恋でもしちゃったかな？私・・・？

そして今日も、いつものように変身。

完璧な夜の女「アユ」が出来上がった。

お店がにぎわい始めた頃、見慣れた人影をみつけ

「あっ！お久しぶりです」

それは、トモミさん一押しだったお客様。

「谷川」だった。

「アユ！俺、海外にいたからしばらく来れなかったんだよ。しばらく見ないうちに綺麗になったね」

「そうですかあw。嬉しいな 嫌われてしまったかなあって心配してたんですよ」

「あはは。大丈夫だよ。アユもトモミも俺にとっては大切な女性だからね」

こんなキザなセリフを、谷川は平気で言うのだ。

「相変わらず、紳士ですねえ」

すると、谷川は思い出したように

「そうだ！アユ 変な奴来なかったか？」

と私に聞いてきた。

ん?・・変なヤツ????

「来てないですよ。 どうしてですか?」

「俺の悪友がさあ 東京に来てて、どこかい店知らないか?って、いきなり国際電話してきたんだよ!」

「まあ、そんな、奴なんだけどね。で!アユしかいないと思って紹介したんだ。」

「そうなんだあ。 ありがとうございますw」

谷川の心遣いに感謝した

でも・・・

「誰だか思い当たらないなあ?」

「そつか!でも、楽しんで来たって言ってたよ」

「そうそう、アユが同じタバコ吸ってるって、嬉しそうに話してた」

ええええええええ!!!!!!

嘘?・・・・もしかして、もしかしくても!

カズ！！

一瞬にして時間が止まった！

「どうしたアユ！」 フリーズ状態の私を見て

「おいおい聞いているのか？」

と心配そうに谷川が私の顔を覗き込んできた。

「あつ・・・ごめんなさい」

私は慌てて体を再起動させた。

「カズさんって言う方ですか？」

「そうそうカズだよ。変な奴だっただろう。昔からの悪友なんだよ！週末は東京にいるから今度、一緒に来るよ」

うそーーーー！こんな事ってあるんだあ

「はい。。お待ちしてます」

やったああ      またまた、神様に感謝

彼に逢えるかも！と思うと嬉しくてたまらなかった。

だって、勝手な妄想をするくらい彼の事ばかり考えていたのだから・  
・

「そうでしたか、お知り合いだったんですね。何も言わなかったし、少しの時間だったので・・・」

「あはは。奴はそんな感じなんだよ。何処行ってもな。だからアユを選んだ。変な奴だが宜しく頼むね」

谷川の言葉に、私は笑顔で微笑んだ。

「ところでさあ！アイツ何してるヤツだと思っ？」

キタツ！！キタツ！！キタツ！！その質問！！

「そうですね。大手企業の営業とかですか？」

私の妄想の中で作り上げたイメージを言ってみた。

「おお営業かあ。あはは！それはいいねw」

谷川は楽しそうに笑った。

「違いました？」

「そうだねハズレ」

あらら・・・違ったか・・・私の妄想パズルが崩壊した。

「直接聞いてごらん。今から電話するから」

そついうと、谷川は携帯で電話をかけ始めた。

ええっ！！

ちよつと待つて！ヤバイ！心の準備が！

ああ！！心臓痛いよぉ！！

「もしもし俺・・・今、飲んでるんだ。ちよつと待つてな、素敵な人に変わるから」

「はい、アユ聞いてごらん」

といきなり携帯を渡された。

「もしもし・・・」

声が震えないように精一杯、平静を装った。

「アユです・・・覚えていらっしゃいますか？」

「・・・・・・・・・・」無言

しばらくしてから

「ああ・・・分かるよ」

聞き覚えのある声が聞こえた。

カズの声だあああ

「酔っ払いに電話させられたんやろ！ごめんな このまま電話切つていいからな

楽しませてやって！」

「じゃあな・・・」

「プープープー」

そのまま電話は切れてしまった・・・

「どうした？聞かなかったのか？」

「えっと・・・切られてしまいましたあ」

「あはは。そつかあ、らしいなあー変な奴なんだよ」

ホント！変なヤツ！

だけど・・・そんな変なヤツが頭から離れない。

なんか変な感じ・・・

完全に仕事モードを忘れてる私。

今日はホステス失格だ・・・

次の日、いつもより早く目が覚めてしまった。

はあく。昨日の自分に反省……

頭を切り換えて頑張らなくちゃ！

私は、窓を開けて大きく伸びをしながら

「週末だあ。頑張れアユ」

と声に出して自分に喝をいれた。

でも次の瞬間……

……ん？？週末………

週末！！！！

彼が東京に来てる！！！！！！！！！！

そう思うと不思議とテンションが上がった

自分で思う……私って単純

でも、逢えるとも限らないし、逢えたとしても……何を話せばいいんだろう？

頭の中で、グルグル考えを巡らせた。

他のお客様の時と同じように、話せばいいじゃん！

でも……出来るの？

あああ……！！わかんない！！！！

何度となく、心の葛藤を繰り返した。

そして……さっきの反省の意味ないじゃん！

と軽く葛藤の中にツツコミを混ぜてみた。

お店は、いつもの週末のにぎわいを見せ

忙しい！！その一言に尽きた。

あっという間に時間が過ぎて行き私は、全開集中モードだった。そして、最後のお客様とお店をでた。

「ありがとうございました。またいらして下さいね」

完璧な営業スマイルww

「終わったあ。ふうゝ忙しかった・・・」

とため息混じりにつぶやいた時ふと街並みを見回して・・・  
何故かいつも見慣れてるはずなのにこの街はいつ眠るんだろう？  
と素朴な疑問が浮かんた。

こんな時間なのに人だらけだし、酔っぱらいばかり・・・

ケンカ族も多いし！ホント！忙しい街だなあ。

そんな事を思いながら店に戻ろうとした時、近くで

「じゃかましい！！」

と怒鳴り声が聞こえ、それと同時に

「ガッシャーン！！」

とガラスが割れたような音が派手に聞こえてきた。

なにになに？？ケンカだあ！！

珍しくもないけど、ド派手だぞお！しかも、黒人さんだし・・・怖  
そう。

相手の人、かわいそうだなあ・・・と恐る恐る見る  
と血だらけ・・・

ヤダ！誰か止めてあげたらいいのに・・・

でも、誰も止めない・・・見て見ぬフリ・・・  
よく見ると、黒人さんもダウン寸前の様子で頭から血を流していた・  
・

警察！警察に連絡しなくちゃ！

と思った矢先に、店から出てきたスタッフが

「警察に連絡したから大丈夫だよ」

と私に声をかけてきた。

よかったあ。少しホッとした。

そしてまたケンカに目を向けると、血だらけだった相手の男が倒れた黒人さんに  
名刺を投げつけていた！

「文句があればいつでも電話してこい！！」

そう言っで、そのまま車に乗り込み消えていった。

ちよつと待つて？？カズだあ！！なんで？？

私の知っているカズとは別人だった！

カズって・・・世界が違うのかも・・・

呆然として、全身の力が抜けてしまった。

我に帰った私は、急にカズの事が心配でたまらなくなった。怪我してる・・・どうしたらいいの？？

不安でいっぱいのまま急いで電話をかけた。

コールは鳴るものの・・・なかなか出ない・・・

泣きそうな気持ちで携帯を耳に押し当てた。

「はい！！」

少し機嫌の悪そうな声だった。

「あの・・・アユです」

精一杯声を振り絞った。

「はあ？なんやねん」

なんだか気の抜けた返事が返ってきた。

「あのお。ごめんなさい。今ケンカしてましたよね」

そう切り出すと

・・・しばらく無言が続き

「アユどうしたん見てたんか？そっか店の近くやったな。ごめんな」

「ううん、私は大丈夫。それよりかなり怪我してるでしょ？大丈夫なの？」

「そっやなあw。大丈夫ではないなあ。卑怯な手でなんとかなったけどなあ」

「卑怯な手って・・・なに？」

「金属の棒があつたから、頭殴ったw」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「そうじゃなくて、かなり血が出てたでしょ！大丈夫なの？」

「だから大丈夫じゃないってさっき言ったやろw」

心配する私を茶化すかのように、カズの言葉は楽しそうだった。

「どこにいるの？今から行くから！」

「あははw いつものホテルに向かってるよw」

「ふざけないでよ！いつものって、わかる訳ないでしょ！」

「おいおい怖いなあ。部屋に着いたら連絡するよ。アユの番号ワンギリしといて！」

「どこのホテルなの？教えてよ！」

「こらこら、女の子のセリフにしては強引だなw。取りあえず後で連絡するから、じゃあな」

「プープープー」

そのまま電話は切た……

何とも言えない複雑な気持ちの波に、今にも飲み込まれそうだった。

### 第三章 いつものホテル

私はお店に戻り連絡を待ちました。

スタッフがアユさん帰らないのですか？

・・・うん

手には携帯握り締めていました

1時間待った。限界アユから連絡しょ！

電源切れてる・・・圏外なの・・・

これ以上お店にもいられないし

近くのBARに行こうと思い

少し歩いてると電話が鳴りました！

もしもし

カズ！ 遅いよ！ 大丈夫なの？

うん大丈夫だよ。手当てしてもらってた

そっかぁ・・・「誰にだろう」

もうお店終わりやる

うん・・・「とつくに終わってるわよ」

じゃあ、いまから帰り？

「我慢の限界でした」

あのさぁ！ 心配して待ってたんだよ！

1時間以上も！！何もなかったように話さないでよ

どれだけ心配したか 分かってるの！！

アユ 大丈夫か？ごめん心配かけて

すぐに連絡したかったけど、ホテルの人に

手当てしてもらってたから

アユ ごめんな

・・・うん 大丈夫だよ。

ごめんなさい。

今からでも、よかつたら少し逢わないか？

うん　どこのホテルいけばいい？

カズから聞いたホテルはすぐに分かった。  
タクシ-に乗り何も考えずに向かった  
ただ逢いたくて・・・

新宿にある高層ホテルに着くとカズがいた。  
タクシ-から降りてカズに駆け寄りました  
大丈夫？　痛々しい顔になってるよ

うん　実際に痛いしw

アユもつと酷いと思ってたよ  
血だらけに見えたし・・・

飲んでるから、よく血もでるんだよw  
でも、すっかり止まったよw

心配かけて、ごめんな

うう・・・考えればアユが勝手に心配してたし

そんなこと言うなよ。　嬉しかったのに

こんな時間だから店開いてないんだ  
ロビ-でもいいか？

・・・うん　いいよ

カズに連れられエレベーターに乗りました  
ロビ－は、40階です。

すごい！噂通りだあ

ごめんな 暗いやろ、照明も落としてるし  
でも外よりはマシやろw

うんw 大丈夫だよ

「二人の声はやけに響く・・・」

ちつと待つてよ 飲み物くらい・・・

いいよ 座つてて 病人さんw

カズ何か飲みたいの？ どこかで買つてくるよ

おいおい、買つてくるって・・・

自販でかよwww

それも・・・そうだねw

フロントから人が近づいてきました

カズを見て会釈しました

あつ！スタッフ用でいいからコ－ヒ－いいかな？

はい。かしこまりました

ええ！！凄いねカズ

だって、いつもの・・・だからね。

ん？カズがオ－ナ－さんなの？

アホかつw そんな分けないやろw

常連さんでゝすよw

思わず吹き出した。こんなカズ見たの始めてw

意外と・・・かわいいwww

「声に出来ないけど」

コ・ヒ・運ばれてきました。

ええ!!

スタッフ用??

こんな素敵なカップ!

ありがと。無理言っただね

いいえ。ごゆっくりどうぞ。

「おお かつこいい 二人だあ」

ここでは自販NGだねw

わたし恥ずかしいなあ

そんな事ないよ。アユに相応しいおもてなしだよ  
そっかなあ

そうだよ、ホテルマンも人を見ていろいろ判断  
してるよ。

アユの仕事と同じだよw

「はあ なんか・・・わたし子供みたいだ」

他愛のない話をしてました。

聞きたいことは他にありましたが・・

でも、とても落ち着ける時間

深夜のロビ・意外といい感じですよ  
あっという間に夜明け・・・

アユそろそろ帰らないと

・・・そうだね

俺 夜明け苦手なんだ

部屋なんかカ・テン閉めてるしw

そうなんだぁ どうして？

ん・・・どうしてかな分からないな

さぁ！行こう 下まで送るよ

あっ・・・はい「話切られた」

カズはタクシ・に乗ったわたしを見送ってくれた。

見えなくなるまで、ずっと見ててくれた。

なぜロビ・なの？部屋に行きたかったと思ってました。カズにとつて・・・わたしって？

わたしにとってカズは・・・

カズを知りたい・・・怖いけど・・・

日曜日・・・お仕事休みだぁ

いつもなら、ゴロゴロしてる時間

でも、カズが東京にいると思うと

ふふ なぜか嬉しくて微笑みが・・・

ロビ・でのデート？w

少しカズが分かったような

私の妄想は、崩れたけどw

電話するかっ！

ん・・・携帯と格闘中

お客様と付き合った事がない！

トモさんにも、よく言いわれてました。

「恋愛はダメ!!」

だよね・・・でも!!

逢いたい><

携帯くん・・・私どうしよう

答えてくれないよね。

はあ

お風呂で考えよう。

ふう - 目が覚めたあ

ん!!

光ってる！ 携帯!!!

着信あり!!

ん？ 知らない番号？

なあゝんだ・・・テンション下がるなあ

髪 かわかそう

・・・

気になるぞお 番号・・・

かけてみよっ

プルプル

お電話ありがとうございます。

ええ!!!

カズの泊まってるホテルだあ

プチッ・・・プープープー

なぜ切ったの私・・・「動揺」

切らなくてよかったのに・・・

よし！決めたあ カズに電話を

ブルブルブル

はい

あつ カズ私だけど、分かる

アユなんだよ いきなりクイズみたいw

そうだねw 「嬉しい」

電話・・・ホテルからしてくれたあ

うん 今日お店休みだろ

逢いたいけど時間ある？

うん。あるある！

じゃあ、夕食でもどう？

うん。大丈夫だよ

ホテルに来てくれるか、予約しとくから

7時にロビーで待ってるよ

はーいw

じゃあ、後でな

うん 楽しみに・・・

切れてるし・・・プープープー

いつも、このパターンで切られてるぞお

クロ・ゼット開いて格闘中です

お店に着ていく洋服はNGだなあ  
ん・・・・・・・・

こんな時間が楽しかったりするんですね。  
普段よりメイク控えめにします

少し早いけど、出かけよう

早く着きすぎwww

ホテル前に公園があるので散歩をする事に  
気持ちを落ち着かすのによかったからです。

時間になりロビーに向かいました。

おお！！昨日とは違う感じです！

素敵なロビーに「感動」

カズがいたっ！

このホテルには不似合いな服装でした  
破れたジーンズにスニーカー

よう！アユ

見違えたよwお店のアユより素敵だよ  
そっかなあ 照れるよw

うん俺は今夜のアユがいいな  
ありがとうw

カズに連れられお店の中へと  
入り口に・・・スニ・カ・NG書いてるし！  
誰もなにも言わない・・・  
カズって不思議キャラなんです  
個室だ！夜景が最高に綺麗！

失礼します

支配人らしき人が入ってきました  
やっぱり・・・服装のことで・・・  
ようこそ お待ちしておりました。  
いつものワインでよろしいでしょうか？  
うん いいよ コ・スもお任せで！  
いいよね？ アユ？  
はい。

私が・・・場違いなようです・・・



## 第四章 スイート

夜景を見ながらカズと食事中。

派手な仕事してるけど、意外と高級に弱いw  
同伴、アフタ-と高級店に行きますが  
いまだに、高級には・・・慣れないのです・・・

カズが問いかけます。

俺っていくつに見えてるの？  
確かに年齢の事は考えた事なかったです。

ん・・・25くらいかな？  
25かぁ・・・30だよ  
ほんとに！ 見えないねw  
でも、頭の中は10代だよw  
それはアユも同じw

ねえねえカズって関西だよね？  
そうだよ。

言葉が関西弁になったり標準語  
になったりするよね。  
そっなんだよ！週の半分行ったり来たりだから  
どこの人状態になってるよw

アユは、ずっと東京なのか？  
そうだよ。

カズって・・・何してる人？

ついに、聞いてしまった「ドキドキ」

職業ですか、お嬢様w

そうだね、自分でも分からないんだあ  
何でも屋かな・・・

もう！真面目に答えてよ！

真面目だよw いろいろしてるから  
説明しにくいなあ  
教えてくれないの？

簡単に言っと・・・

投資屋 みたいな・・・

まあ これくらいで許してw

・・・わかったあ

面接に来てるみたいだぞアユw

そうだねw だってね、不思議が多いから  
聞いてみたくなるんだよ

こんな高級ホテルでの食事なのに  
まったく気取らず いい感じです。

ますます引き込まれて行くカズに・・・

食事が終わりました。

少し沈黙

．．．．．

アユ 彼氏いるのか？

．．． いないよ

営業するなよ

してないよ><

本当だよ。いませんよ  
そっか、分かった

．．． カズは？

「聞いてしまったあ」

．．．．． 「心臓痛い」

いなかったけど．．．

今はいるよ！

ドキッ！！「心臓痛い」

やっぱり、いるよね．．．

そうなんだあ いいよね彼女さん

それは、本人に聞かないと分からないけどね

どう？

ん？

なににに？意味分かんないよカズ！

俺の彼女に聞いてるんだが・・・  
目の前にいるアユにだよ。

ええ？

いきなり口説くのは、あかなあw  
ごめん ごめん w w w

固まった・・・わ・た・し

まあ 彼氏いないのならOK！

この後、どうする？  
時間とか予定とかは？  
頭がついていかない・・・  
カズのペース！！  
でも でも 口説かれたの  
からかわれたの  
クルクル回ってる・・・

どうした！怒ったのか アユ？  
大丈夫だよ。 心配しないでw  
何もないよアユは・・・

そっか じゃあ部屋に招待してもいいか？

・・・

・・・はい

カズの後について行きました

考えればまだ・・・2・3回目だよ

カズに逢うのは・・・

部屋に行く・・・

軽い女と思われる・・・

考えても・・・

引き返す勇気ないし・・・

安心できる人・・・

安心ってなに？

こんな事を思いながらも心は穏やかでした。

エレベーターに乗り50階・・・

一段と夜景が綺麗です！

部屋の前についた・・・

緊張MAX状態・・・

広い扉が開いた・・・

どうぞアユ

・・・はい おじゃまします

ここって・・・

ホテルの部屋・・・

広い！！いきなりグランド・ピアノ！！

ここでカズ一人で泊まってるの？

うん 無駄に広いよなw

迷子になりそうだね。

あははw俺も始めはそんな感じだったよ。

カ・テン開けようか・・・

ここからの夜景は、最高なんだよ

カズがスイッチを押しました

自動でいろんな所のカ・テンが開きます。

うわぁゝ 素敵！！

だろw

うん。吸い込まれそう 夜景に。  
気に入った？

うん 最高に綺麗 アユ感動だよ  
よかった 招待して

本当に夜景が綺麗 素敵な部屋

好きなところに座ってよ

うん。

キヨロキヨロ・・・

部屋の探検していいよw

アユって意外と面白い子やな  
だってゝ 感動するよ

こんな部屋来れないものゝ  
そうやなあ 確かに来れないかもな  
俺も、そう思いながらいつも来るよ  
いつもって・・・？

そう いつものホテル&部屋だよ。  
週末は、この部屋にいるよ

ええ！！すごいなあゝ  
いいなあゝ

アユならば、いつでも歓迎するよ  
ほんとに。。

だが週末以外は、知らない人がいるよw

あはwそうだね。

東京の夜景が360度見れる部屋

ねえ。下のほう見て！

あんなに小さいよ車とか

そっかあ 俺は遠慮するよ

高い所は・・・苦手やし

そうなのゝ 意外だあw

アユ ピアノ弾ける？

少しならね

よし！！弾いてよ俺聞きたいから  
ほんとに少しだよ・・・

いいよ この部屋でピアノ聞いてみたかった！  
カズ弾かないの？  
弾けないよ俺は・・・

私は、弾き始めました。意外と緊張  
しませんでした。

ふと カズを見ると微笑んでいます

とても優しい顔して・・・カズ

ねえカズ・・・

いつ帰るの？

今日だよ！明日は月曜日だし

ええ！！今日って・・・

こんな時間だよ？

飛行機は、間に合わないな

新幹線なら・・・どうかな？

じゃあ、こんなゆっくりしてたら・・・

そうなんだけど、いいよ！

明日にするかぁ！

お仕事大丈夫なの？

さぁ？・・・どうやるw

・・・「不思議キャラモード」  
いいよアユは気にしないで  
アユの時間許す限りOKだよ。

いいのかなあゝ

うん いいよ いてほしい

・  
・  
・  
・  
「嬉しい」

## 第五章 週末

広い部屋でふたりです。

いろいろ話が出来ました。

血液型や誕生日など

こんな事さえ知らなかった・・・

不思議だね何も知らない二人が  
ホテルの部屋で話してるって  
こんなのもいいかもって俺は  
思ってるが・・・

アユは大丈夫か？

うん。大丈夫だよ

こんな経験始めてだけどねw

俺もだよ 信じてくれるかな？w

うん アユも始めてだからね

OKお互いに始めての経験やなw

カズってね

アユの行動や伝えたいことを  
分かってるみたい・・・

そうなのか？

うん。言いたいこと先に言われるよ

偶然やる何も考えて話してないよ

アユとは自然に話せるからね

アユもだよ。

自然に話せるし、ずっと前から  
知り合いみたい。

俺も感じるよ それは・・・

意外と、兄妹だったりしてな

・・・「兄妹って」

やはり・・・

女として・・・

見てないの・・・

少し切なくなりました。

そうだ！アユ

海とか好きか？

好きだよ サ・フィンとかするんだよ！

まじで！！

うん。すごく好きだよ  
結構乗れたりするよ。

そうなんやゝ

3回目きたねw  
偶然の3回目だよ

俺も、中学からしてるんだよ

ええゝ　すごいね！

今度一緒に行こうか！！

うん。行きたい

3回目あったよね。。

あつたな！

カズの目が時計に・・・

ちょうど日付が変わったくらいです。

アユどうする？

どうするって・・・

朝まで一緒にいたい・・・

「言えなかったけど」

また、いつでも逢えるから  
今日はバイバイするか？

アユも明日お店だし、お肌に悪いやろ

う・・・うん

じゃあ、下まで送るよ

「何も言えないよ・・・」

部屋を後にしてエレベーターへ

ロビ－につきもう一度エレベ－タ－へ

この迷路のようなホテルに感謝です。  
少しでも長くいれる。

ああゝついた・・・

ドアが開きました。

カズの手がアユの腰に・・・

始めて触れた・・・

カズに・・・

手の温もりが私の心に伝わります

幸せな時間・・・

タクシ－が見えてきた・・・

帰りたくない！！

どうしよう・・・私

泣きそう・・・

カズの手が放れました・・・

カズはペンダントを外してます。

アユこれ持つててくれないか

俺がサ・フィンする時のお守りなんだ

そつと、アユの首に付けてくれます。

クジラのシッポがついてて可愛い。

うん。ずっとつけてるね。。

「ホッと出来ました」

今までカズについてた温もりも一緒に

私は、タクシ-に乗り込み

・・・おやすみなさい

うん おやすみ また来週ね。

うん・・・

走り出した車の中で・・・

涙がこぼれた・・・

ペンダント握り締めて、カズが見えなくなるまでカズのいるホテルが見えなくなるまでずっと、見てた・・・

なぜか泣いてました・・・  
嬉しくてか悲しくてか・・・  
・・・わからない

確かなのは、来週も逢えるよね

そう言ったよね　確かにカズ・・・

カズが言ってくれたこと・・・  
思い出してました。

何か辛い時とかはね  
携帯のバッテリー・みたいに減ってきたら  
充電するんだよ  
充電は、俺がしてあげるからね。

でも、もう・・・

切れそうだよ　充電

さっき別れたのに・・・

どうしたらいいのよ

・・・カズ

家のベットはとても冷たいです

カズの部屋は暖かったから・・・

カズとの時間を思い出して  
少しぼくっとしてました。

メ－ルが届いた！

カズからだ！

楽しかったよ おやすみ  
来週も逢ってくれるよね？  
返信はしないよ 俺メ－ル苦手

あはは・・・カズらしい。。

アユも返事書こうw

来週 楽しみにしてます。

今夜は迷惑じゃなかったですか？

「書きたいこと あり過ぎ」・・・

でも、我慢して おやすみなさい

．．．．

返信．．．

やっぱり こないし．．．

この日から、携帯と一緒に  
眠ることになりました。

ペンダントもw

不思議なもので週末まで  
いつもはバタバタモード  
すぐに週末だったのに．．

週末．．

なかなか来ない ><

メールは、送るが．．

なかなか返信こない

返信返ってきても

うん。

そやなあ

わかった

つて!!.....

ずっくと待つて・・・

この返信は・・・辛いよ

早く来ないかな週末・・・

## 第六章　ぬくもり

お店は、相変わらず忙しいです  
まあ、いいことです。が・・・

木曜日・・・

明日はカズが来る！逢える？

スタッフが耳打ちします

えっ！！

カズの悪友がVIP Roomに来た！

よしよし。。カズのこと聞いてやるぞ

悪友さんこと谷川さんです。

大切なお客様。トモさんからのです。

「席 移動・・・」

失礼します。

おお アユ来たぞ！

あれれ・・・

かなり酔ってるぞ・・・

ええ！！目を疑いました！

カズもいる・・・

なんで・・・

動揺・・・ダメダメ わたし！

ここは、お店！他の女の子もいる。

深呼吸・・・スイッチON

よし！！

いきなりで、ビックリしましたよ。  
カズさんも一緒だったんですね。

私は、谷川さんの隣に座った

「カズの隣に座りたかった・・・」

今日は、カズと横浜で飲んでてね

ノリでさあ、アユところ行こう！

で、来ちゃったよー横浜からw

そうなんだあ 嬉しいです

ありがとう　谷川さん！

ダメだあ・・・カズが気になる

スイッチ切れそう・・・

しかも、カズも酔ってる・・・

カズの隣の女が・・・き・ら・い

サヤだ！！やたらとベタベタ接客です！

谷川さんとの話が・・・頭にはいない

ある意味かなり酔ってるので助かってます。

もう・・・腕組んでる！！

すごく、密着してる・・・

いつものサヤだけど・・・

相手は、カズだぞ！！

私も、そんなに・・・

腕も組んだことない！！！！

カズも・・・バカッ!!

まだ一言も私と話してない!

ムカッ!!

でも、こんなカズもいるんだ・・・

短い間にいろんなカズ見てます。

「フウ - 頑張れ わたし!」

谷川さんがサヤを呼んでいます。

こっちに来ていよサヤ

アユと変われ

よし!!いいぞ。。

私は席を立ちカズのほうへ

ん・・・まだベタベタ!!

サヤ 谷川さんが呼んでるわよ

は  
い

やっと、離れた・・・

カズの隣に座りました。

でも、お店モードです！

ずいぶん酔ってますねカズさん

ようやく目があいました。

そうやなあ・・・酔ってるなあ

明日じゃなかったのですか？

うん そう明日やったよ

・・・かなり酔ってるぞ

サヤとの態度とずいぶん違います！

バカ・・・カズのバカッ！！

心で叫び・・・笑顔で接客

・・・がんばれ

もう、お酒はやめましょうね。

ねえ！カズさんw

・・・わかった

やけに素直なカズです。

カズさんもいたからビックリしましたよ

周りの女の子を気にしながら接客

いつものように・・・

トモさんの「お客様との恋愛ダメ」

すごく分かった・・・

なあアユ

はい 何でしょうか？かずさんw

カズの腕が私の背中に進みました・・・

そして肩に手が・・・

だめだよカズ！！わたし・・・

ここお店だし・・・

どうか、スイッチ切れないで！！

カズはさらに私を近くに・・・

あ・・・カズの匂いがする  
ダメダメ頑張れ わたし！

もう ダメですよカズさん

次の瞬間

カズが私を抱きしめた！！

耳元で囁いた・・・

逢いたかったよ アユ

・・・

わたし・・・

始めてこんなに近くにいる

・・・

崩れそうだよ

頑張れ！！わたし

お店での立場もあるし

心のスイッチ頑張つて！！

私はカズの手を離しました！

ダメですよ。カズさん

完全に夜の女・・・ON

ここからの私は完璧に夜の女  
他のお客様の席もこなしました。  
不思議なくらいに完璧です。

カズ達の席に戻ると谷川さんが  
アユ！この後いくぞ！  
何か食べたいか？  
．．．．．

ええー！アフター  
まだ、つづくの．．．><

はい。分かりました  
支度してきますね。

私たちは、お店を出ました。

カズ、谷川さん

私、ナツキ、サヤ！ユウ

なんで来るのサヤ！

気が抜けない女！！

歩き出すとカズが・・・

俺・・・帰る！

眠い！だるい！

ええ！！カズ・・・そんな～

カズのいない・・・アフター

カズは、タクシーに乗ります

マイペースな・・・カズ

谷川さんも止めません

タクシーのウィンドウ開きました。

アユ！ カズに呼ばれました

はい 大丈夫？気分悪いの？

大丈夫だよw 「これ！」「ん？

私の手にホテルの「キー」

待ってるからな

う・・・うん。

車が走り出しました・・・

私も一緒に行きたいよ　><

谷川さん行きましょうか  
みんな、なに食べよつかあ  
「何も食べたくなかった」

アイツらしいな！  
なっ！アユ  
そうですねえw

じゃあ、俺も今夜は帰るとするかあ

そんなあゝ「サヤです」  
今度、行こうなサヤ

わかりましたあゝ

谷川さんもタクシーへ

楽しかったよ。また、遊ぼうな！

はい。ありがとうございました。

アユ！　谷川さんに呼ばれました。

頼んだよw

ええ！？

谷川さんが微笑んだ。

すべて分かってる・・・

はい！ありがとう。

私は、すぐに向かいました！！

カズのところへ

ホテルに着きロビーへ

初めてのデ・ト？深夜のロビ－です。

同じ光景だあ

ヒ－ルの音が響きます

フロントの人が軽く会釈

50階！

扉の前に立ってました。

深呼吸　フー

キーをさしこみます！

開いた！あたりまえですが・・・

なんだか嬉しいです

扉を開くと一面素敵な夜景が広がります  
この間と同じです。

ソファ・にカズがいます  
照明は点けてません

夜景の中にカズがいるようです。

眠ってるのかな？

そつと、近づいた・・・

カズ・・・大丈夫・・・

・・・

大丈夫だよw

カズは立ち上がり

私を抱きしめました!!

おかえりアユ

.....

ただいまカズ

逢いたくて早く来てしまった

うんうん・・・

アユは？逢いたかったか？

うん

カズが一段と強く抱きしめます。

もう スイッチOFF

涙も流れました・・・

夢なんかじゃ・・・ないよね。

私も強く抱きしめます。

抱きしめあってる二人が・・・  
ガラスに映ってます。

夜景の中にカズと私が・・・

## 第七章 約束

しばらく抱き合っていました。

カズの力が抜けていくようです

大丈夫・・・カズっ

・・・うん

疲れた 飲みすぎやな

ベットまで・・・

連れて行ってアユ

・・・うん

どこなのベット？

広くて見あたらないよ

あっちだよ・・・

フラフラしてるカズを連れて、

いくつか扉を開けると大きなベットが・・・

カズと一緒に倒れるようにベットへ

私は、カズの背中を抱きしめていました

カズは、私の腕を握り締めたまま  
今にも眠りそうです・・・

アユっ

なに・・・

もう少しこのままでいてくれ

うんうん。

カズの背中・・・暖かい。

鼓動も伝わってくる。

やがてカズは、眠りました。

私・・・

カズが目を覚ますまで・・・

でも、出来ない・・・

両親との約束がある！

それも、ずいぶん前からの・・・

大切な用事だし・・・

ごめんね カズ・・・

カズの体から離れました。

カズの寝顔みてたら帰れない！！

夜明けまで側にいるからね。

・・・

夜が明けてきました。

カズの苦手な夜明けです。

カーテン閉めておくれ

私は、短い手紙を残しました。

「カズごめんなさい

今日は、以前から両親との約束があります。

こんな貴方を残して帰るのはとても辛いです

目が覚めたら連絡して下さい。

午後ならばいつでも大丈夫だよ。

ごめんね カズ」

ホテルの「スペア・キー」・・・

淋しいけど、手紙とキーをテーブルに

おやすみなさい カズ・・・

両親との約束も終わりました。

部屋でカズからの連絡を待ちました。

あゝあゝなんで、「キー」

置いてきたんだろう

あの時は、もって帰れなかった・・・

昨日から寝てないから少し眠るか・・・

ダメ！起きれないかも

眠気と格闘です。

そこに、電話が！！

もしもし カズ

うん 頭いてゝ

ふふw 大丈夫ですかあゝ

うん そや！なんでやねん！

なにが・・・

カギもって帰れよゝ

せっかく2つ用意させたのに

・・・そうなんだあ

アユ 今日お店やろ

そうだよ。

じゃあ、もっていくよゝ

ねえねえカズ

ん？

今から行つていい！

いいけど、アユ寝たのか？

寝てないけど、行くね！

待っててよ！すぐに行くからね！

プチッ！・・・切ってやったあああ

いつもの、おかえしww

眠気なんか、どこかにいったあ  
服装も、カジュアル！！  
着替える時間もつたいない！

心配は、ホテルです。

まあ、いつかあゝ  
ダッシュでロビ－通過してやるぞ

ホテルに着きました。

かなり場違いな洋服です。  
計画通り・・・ダッシュ！！

今日は、この迷路がウザイ！  
ってか・・・恥ずかしい><

カズの部屋の扉が見えた。。

カズがいた！！

・・・

驚いた！！

バスローブ姿だあ

・・・

バスローブに驚いたのではなく髪型です。  
いつもは、前髪あげてるのにシャワ-の  
後だから、前髪おりてるぞw

「かわいいw」

おい！

なに 笑ってるん？

カズそのほうが可愛いよ

なにが？

前髪だよ。

ああ・・・うるさいねん

すぐに髪つくるから！

ええゝ そのほうがいいよゝ

い・や・だ！

可愛いのにゝ

・  
・  
・  
・

カズが照れてます。 見逃しません。

もう一度、心の中で「かわいい」

ああゝス・ツ脱ぎっぱなしだよ

クロ・ゼットにかけておくね。

うん

カズのジャケットを拾い上げました。

ん・  
ん・  
ん・

・  
・  
・ムカツ！

ねえねえ カズ

なに？

香水ついてるよ

・・・ん？

だから、香水ついてるって！

女性の香水だよ！

そっかぁ アユのか？

いいえ！違います！

ん・・・誰のんやらな

・・・

そっかぁ！昨日アユの店でついたんやな

そうだね！！サヤの香水だよ！！

私が席にいなかった時、何してたの！

ずいぶん、ベタベタしてたんでしょ！

こんなに、匂いがつくなんて！！

いやゝ 普通に飲んでたよ・・・

あまり覚えてないし・・・

へえゝ 覚えてないんだゝ

昨日のことは、何も覚えてない！

そうなんだあ！！

アユ怖いし！分かったクリ・ニング！

そうそう、クリ・ニング呼ぶから

ね。アユ・・・

そうして！！昨日着てたのすべてね！！

分かりましたアユさま

ん！

シャツの襟に・・・

カズさん・・・これは？

口紅だね・・・

私では、ありませんよ！！

そっ・・・そうですか・・・

誰のかな・・・

ムカツ！！サヤでしょ！！

そうかなあゝ でもクリ・ニング！

なあ！アユ 機嫌を直して・・・

私が洗ってくるね！

・・・バスルームへ

アメニティの中に小さなハ・サ・ミ

チヨキツ！フフ 襟切った！！

ねえねえカズゝ

綺麗になったよ・・・

ほらっ 見て・・・

カズ・・・かたまってました。

マジかよ・・・アユ

これは、捨てましょう  
ね。カズ

わかった〜アユ こ・わ・い

でも、アユが新しいのプレゼントするね。

いいよ そんな事しなくても

ダメ！するの！

なあ、アユって・・・マジ怖いよ

少し落ち着こうよ。 なっアユ

俺、そんな悪いことした・・・

飲みに行つて、香水、口紅・・・

まあゝ 悪い事・・・だな・・・

ふと、気づいた！わたし・・・

「彼女でもないのに・・・」

そうだよね ごめんなさいカズ

アユが言える立場じゃないよね

本当にごめんね。

いや・・・あやまるなよ

立場とかそんな事は関係ないし

勢いにビックリしただけやで。

深く考えるのは・・・やめよ！

なっアユ

わかった。「喧嘩しなくなかったし」

カズ お願いしてもいい？

いいよ。なんだい？

ふふw 今から夕方までデ・トしよ。

でね。服装は、アユが決めるの  
髪型も、そのままだね。

いいよね。カズw

いやだ！

ダメ！！アユの言うこと聞いてよ

いや！！

そんな　カズ・・・

せっかく機嫌直そうと思ったのに！

わかった！！服装はいいけど  
髪型は　いややで！

あはっ  
w

さっきクロ・ゼットで見たんだあ

サ・フブランドの洋服！

いいよねw

ええっ　ホテルの外でるのか？

そうだよ。渋谷行こうよ

マジで！

うん。。　恥ずかしがるカズを

無理やり連れて行きました  
髪型も、そのままでww



## 第八章 24時間

渋谷に着きました。

ねえねえ、カズ

・・・なにっ！

手・・・つなごつかあ

ムリ！！

なんでよ。

恥ずかしい！

じゃあ・・・

・・・

いきなり、腕を組みました。

いいでしょカズ

・・・ああ「照れてる」

こんな、カズがとても好きです。

服装だって、まったく普通で  
髪型だって可愛いです。

ス・ツ姿のカズとは、別人だけど・・・

今は、誰が見ても恋人です。

カズは、自分の姿を何度も見てます。

今日のカズ一段と若いよw

そっかあ！

同じ年くらいに見えるよ

・・・

なあアユ

なになにw

アユって、いくつ？

あっ・・・そうだった

カズの年は、聞いたけど  
私の年齢まだ言ってませんでした。

そっかぁ・・・私の年齢も知らなかったんだ

少し複雑な気持ちです。

先月で23になったんだよ

23！！ほんまに！

なに？そのリアクション

もっと、上に見えてたの！

・・・

いいや・・・そのくらいだと

嘘だぁ カズもっと上だと思ってたんでしょ

・・・

大丈夫だよ・・・アユ

答えになってないよカズ

そうじゃなくて23歳か・・・

俺との年の差を考えてた

今のアユは23に見えるよ

お店では、もう少し上に見えてた。

そっかあゝ

アユは、年の差はまったく感じないよ

カズは？

今まで感じなかったよ

「今までって・・・」

年下は・・・お子ちゃまですか？

いや立派な女性だよ

こんなに年が離れてるのは・・・

のは？なに・・・

始めてかな、デートとかするの

そうなんだ・・・

複雑な気持ちになりました・・・

どうしたアユ？

ううん・・・なんでもないよ

で、どこ行くの？

決めてないよ

ブラブラして洋服さがそうよ。

プレゼントもしないとね。

マジですか・・・アユ

決まった店もなく渋谷に！

そうだよー

だって、デ・トでしょw

・・・

そうだった

アユに任せるよー

プレゼントのシャツは決まりました。

でも、まだ私のたくらみがあります。

次は、ここね！

なんでやねん

いいから！

始めてでしょうカズ

あたりまえや！

撮ろうよ「プリクラ」

あははw

最高の笑顔・・・わたし

ムツとしてる・・・カズ

でも、記念が出来たね。

カズもどこかに貼ってよ！

ムリ！！

こっそり、貼ってやる！

次は・・・ここ

ええゝまだ行くんかあ

最後だからゝ行くよ。

カジュアルな洋服屋

ここだね、カズに似合うの選ぶよ。

はいはい・・・

お好きにしてくれ

あはっww

あきらめたようです。

まるで着せ替え人形状態のカズ

私の趣味で、カズだったら絶対に  
選ばない服装です。

楽しいぞお

全身！私が決めました。

時間が・・・ありません！

お店休みたい・・・

カズも気づいてました。

そろそろだね アユ

・・・うん

ここで、分かれような

う・・・うん

そんな顔するなよ

俺、お店行くから

えっ 本当に？

素直に喜べなかったちゃんと、  
接客出来るの・・・

この間のように・・・

ダメか？行ったら・・・

・・・いいよ

大丈夫だよ！ベタベタしないから！  
お店が終わるくらいに行くよ！

なら、いいよねアユ

．．．．．

分かってってます

うん。ありがとう

一緒に帰れるよな？

うん。大丈夫だよ

お泊りできるか？

お泊りって．．．

出来るよ．．．

OKお泊りセットも忘れるなよ！

ずいぶん簡単に．．．

「言いすぎだよ．．．カズ」

いつものように変身です。

今日は、荷物が多いぞお

始めてカズの部屋に泊まる！

ダメダメ・・・

お仕事モードだよ！わ・た・し

お店は忙しく大変でした。

私は時間ばかり気になります。

カズ・・・

いつ来るんだろう？

ラスト30分・・・

って、言っても時間通りに終われません

カズが来ました！

いらっしやいませ。

カズは、いつものス・ツ姿です。  
もちろん、髪型もです

アユ俺、カウンターでいいよ

本当に？

うん いいよ。

仕事の邪魔にならないようになっ！

ええゝそんな・・・

確かに、この席は見えないのです  
でも、お客様を座らせるのは・・・

いいから！早く行け！アユ

わかったゝ

お店が終わり近くでカズと待ち合わせです。  
そのまま、二人してお店を出るのは不自然  
私は・・・よかったです・・・

カズは、理解してくれています「水商売」

大きな荷物をもって車へ  
カズと二人の空間です。

おつかれアユ

うん。おつかれさまゝ

嬉しい。。この瞬間からスイッチOFFです。

しかし、アユ・・・

なに？

海外でも行くのかw

・・・この荷物

女の子は、いろいろとあるのっ・・・

そっか 大変だな

もうっ 恥ずかしかった。

## 第九章 告白

部屋に着きました

今日は落ち着きません・・・

アユ！クロ・ゼット使ってや  
自分の好きにしていいいからな。

・・・うん。

なあアユいつまで？

なにが？

いつまで、いられるの？

・・・ええ

俺が帰るまでいいか？

うん・・・いいよ。

分かった、ゆっくり過ごせるな！

うん。

こっちに来て・・・

カズに連れられていったのは・

ここが、一番気に入ってるんだ

おお！！バスルームです・・・

すごく広いねえ　夜景が綺麗！

お風呂に入って夜景最高やでw

うんうん。でも、見えないかなあ

こんな、高い所だから見られないよ

見えてもいいやん！アユ、スタイルいいし

あははははは・・・

・・・なに笑ってるのっ！！

カズは、少しお湯を入れ始めます。

足湯だよ。アユ

カズと寄り添って座りました。

うわぁゝ いいねゝ

だろ！

ちつと、待ってるよ

はゝい。

カズはピンドンを持ってきました。

こうして飲むんだ・・・いつも1人でねw

でも、今日はアユがいるから最高にいい気分だ

「まるで、映画のワンシーンです。」

凄いネエ カズっていつもこんな週末いいなあゝ

でもこれからはアユも一緒だろ？

・・・

いいの・・・

もちろん！

すっかり、落ち着いてました。

カズの話は楽しかったです。  
学生時代の話や友達のこと  
同じ趣味のサ－フィンの話など・・・

アユ着替えれば？

このまま、シャワ－して楽にしるよ

バスルームから、カズが出行了きました。

そうなんだ！！！

化粧落とさなければ・・・

スッピン！うううゝ

そうだよね・・・

化粧したまま眠るのも・・・

・・・

考えても仕方ない！！

すっぴんのアユ見せてやるぞお

シャワーをすましパジャマに変身！

何度カガミを見ても・・・

変わらないよ　＞＜

バスルームを出てカズの側へ

ジャジャン　どう？

すっぴん　アユちゃんだぞお！

ん？そろそろ　そやろ・・・アユ

シャワーして　化粧してたら  
なんでやねん・・・ってなるやんw

そうじゃ・・・な・く・て

「バツサリ切られたあ」

あゝ　感想とかないの・・・

なにが？

すっぴんの・・・

・・・別につ

あっ・・・そうなんだ・・・

じゃあ、俺もすっぴんになってくるよ

バスルームに行ったカズっ

私のこの緊張・・・なんだっただんたろう

カズ仕事してたんだ・・・  
PC開いてます！

見ては・・・いけない

でも、気になる

カズの仕事に分かるかも・・・

でもでも・・・

ダメだよ・・・アユ！

もう1人の私が囁いた！

だよね。。

おーいアユっ

カズが呼んでいます。

バスルームの扉の前で、なに？

入ってこいよ

ええ!!!

なに・・・言ってるの・・・

なあなあ　アユ

少し扉を開けました・・・

なにになに？

来てごらん

・・・

本当に入るよ!!

アワアワwww

何してるの・・・カズっ

これが、ええねんw

アワの中にカズがいました。  
子供みたいです。  
顔だけでてました。

なに？その姿を見せたかったの？

違う違うw

見てごらん夜景

あのビル何か書いてるやろ

ホンとだゝ

部屋の明かりで作ってるんやな

不思議やなあ どうしてるんやろ？

各部屋に誰かいて、点けろゝ  
とか、行ってるんかなw

それは・・・ないのではカズw

分かってるわあ

カズの行動、発言・・・

いつも、驚かされます・・・

カズが出て来ました。

おおゝアユ！

なに？

すっぴんやんw

いきなり！！！！

恥ずかしいよゝ カズっ

どれどれ、よく見せてw

もう！！！！

わっかいなあゝアユw

すっぴんのアユ見たったw w

さっきも 見たくせに・・・

改めて、言わなくても・・・

可愛い、可愛い ええやん アユw

ヨシヨシ・・・頭をナデナデ

子供扱いされてる・・・わたし

疲れてないか？

昨日から寝てないやろ

うん。大丈夫だよ

ムリするなよ

うん。「寝れないよ」

カズは、PCに向かって何か始めました。

お仕事？

うん そう・・・

先に寝ていいからな

大丈夫だよアユ若いしw

なに・・・してるの？

見てみるか？

いいの・・・

いいよ

ん・・・・・・・・

・・・・・・・・

分からない・・・

わからないよ・・・カズッ

そっかぁ

じゃぁ、分からんでええよw

またゝぁ 子供扱い！！

「株」みたいな感じだよ！

もう少しで、終わるからな

はゝい。。

邪魔しないでおこう・・・

しばらく お部屋の探検中です。

本当に広いなあ

私だったら、怖いな

この広い部屋で1人は・・・

そうだな！ピアノ弾いてよ！

こんな、時間だと迷惑・・・

まあ、いいかつw

カズが近くに来ました。

この時間はダメだね？

そっかあ 問題ないやろw

あはっ  
w

さあ、ベットに行こうか！

・・・ドキッ

う・・・うん。

横になると、すぐに眠れるよ。  
寝てないんだから

おいで、アユっ

はい。

ベットは二つ・・・

こっちアユ使って！

・・・うん

私はベットに入りました。

ひとりでは、広すぎる・・・

ふたりだとちょうどいい・・・

「一緒に眠りたい」

カズは、ベットルームにあるソファへ

眠らないの・・・カズ？

うん もう少しこの時間を感じてたいから  
いつもひとりだろ、今日はアユがいてるから  
とても、落ち着ける。

アユ、そのままでいいから聞いてくれ

俺、はつきりアユに付き合って・・・  
言ってないよな！でも、俺たち今・・・  
ホテルの部屋に・・・ごめんな。  
もう少し、俺に時間をくれ！自分の中で  
整理出来たら、ちゃんと言うから。  
それまで、待っててくれるか？それまで・・・  
アユを抱かないし！でも、アユが待てないなら  
いいよ。俺から、離れて行っても・・・

「・・・なんだろう・・・悲しい・・・」

アユは、待つてるよっ・・・

返事しないでいいから、聞いてくれ！

でも！もし・・・アユの事を苦しめたり  
傷つけたり、誰かがしたら・・・  
俺のすべてで「お・ま・え」を守るから！  
今、俺が言える事と気持ちだから。

・・・はい。

「ガラスの翼」 激動 へ

ガラスの翼へ激動（前書き）

「カズとアユ」

ふたりは、歩んで行く

その先には・・・

幸せな時・・・

悲しい時・・・

ただ言えること

もどることなど

考えられなかった

## ガラスの翼く激動

カズの言葉の意味・・・

もう少し時間をくれ・・・

自分の中で整理・・・

なんだろう？

いろいろ考えてしまうよう・・・

今は、何も聞かないでカズを待とう！

もう、離れることは出来ません！

始めてのお泊りは、朝を迎えました。

眠れないと思ってましたが昨日から疲れが・・・  
いつの間にか眠ってました。

私が目覚めると隣にカズがいません！

私はベットルームから出て隣の部屋へ

・・・手紙が！！

おはようアユ。

起きたら連絡して

ホテルのジムにいるから。

内容読むまでドキドキでした。

もう！ 寝起きなのに・・・

心臓に悪い・・・

マイペースなカズが戻って来ました。

おはようアユ

・・・うん、おはよう

いいねえアユ

何が？

秘密だよ

ええ　なになに

あれっ　アユ

寝起きの顔も可愛いね

そうだった　＞＜

見ないでよお

お腹すいたナル・ムサ・ビスで  
いいよな。

うん。「話・・・切られた」

「なんだろう・・・秘密」

カズは眠らなかったの？

寝たよゝ

アユの寝顔見てねw

ええつつつ

本当に　＞＜

アユって・・・

なになに？

寝言w言ってたよw

なんて言ってたの！！

お腹すいたあゝ

つてねw

嘘だあゝ

今日は何して遊ぼうかアユ

どこか行きたい所あるか？

・・・ん？

カズは？

そうだな買い物かな

いいよ。。決定！

この間はアユに任せだが  
今日は俺が決めるよ！

はゝい。。

お店も休みだし、ゆっくり出来るな！

うん。。

さあ、食事して出かけるよ。

カズとホテルを出ました。

どんな変身させようかな？

アユを変えてやる。お返しやw

カズに連れて行かれたのは

ブランド・・・

またもカズとの価値観が・・・

嬉しかったけど「いいの？」

ばかり口にしてました。

どこのお店行ってもカズは  
VIP扱いです。

この日は最後までカズペースです。

もう・・・世界が違いすぎ！

アユ夜はホテルで食事いいよな

うん。

部屋に帰って来ると・・・  
ル・ムサ・ビスで食事ですが・・・  
10人以上座れる大きなテーブルに  
運ばれた食事・・・

あの・・・カズ????

誰が来るの？

来ないよ

こんなに、食べるの????

食べれるだけで・・・

もったいないよ!!

そっか・・・そうだな

今度からアユに任せるよ

そうしましょう!

メニューにない物も作ってくれるよw

あ・・・そうなんだあ

私の常識が・・・「おかしくなる」

まったりタイムです。

いつもの休みだったら何してたかなw

今はカズとDVD見てます。

ねえカズ

・・・ん

この部屋とベットルーム、バスルームしか使ってないよね？

・・・そっやなあ

いつもだよ。だから無駄に広い！

じゃあ他の部屋にしたら？

・・・そっやなあ

来週からは、そうしようよ。

出来ない！

なぜ？

ここの夜景が一番やから

そうなんだあゝ

でも、もったいないから

部屋もアユが決めていいよね

それは、あかん

・・・

ここが いいの！

なっ！アユw

わかった・・・

「わかんないよ」

カズがベットから大きなシートを持ってきました。

アユこれに包まれ！

ええゝ？？何するの？

いいから裸になっただよ。

バスルームで待ってるからなっ

カズは・・・笑顔でバスルームへ

・・・

裸で・・・

包まれ・・・

恥ずかしい・・・

カズペース・・・

言われたままシート包まり  
バスルームへと・・・

俺なあ 一度したかったんや女性の髪・・・  
洗ってあげたかったんやw

いいやろ

・・・うん

カズに抱きかかえられました。

子供の頃を思い出します。

お母さんに洗ってもらってた頃・・・

でも、すごく優しい不思議な感じ・・・

抱かれてる・・・

優しいカズに・・・

朝が来ると、しばらく離れ離れです。  
とても、寂しいです

週末まで逢えないよ・・・

遠距離恋愛？

でも、ないかあ

週末3日間は、一緒だし・・・

空港までアユも行くね。

・・・うう

分かった。

朝食を済ましチェックアウト  
変な感じだけど週末まで  
誰かの部屋になるんだなあ

空港に着くとカズは搭乗口へと

じゃあ

うん。・・・ばいばい

カズが見えなくなるよお

ん？

何かしてる・・・カズ

手話？

意味・・・分かんないよ

カズの姿が見えなくなりました。

なんだっただろう???

カズから電話です!!

もしもし 分かった？

わかんないよ・・・

手話？

違うよ「サイン」だよ。

意味は？

「貴方に夢中」だよ。

二人だけのサインだよw

うんうん。「嬉しい」

切るね アユ！

うん・・・

もう、飛行機の中だし！

・・・

乗る前に、かけるよ・・・

普通は・・・



## 第一章 価値観

こうしてカズとの日々も2ヶ月が過ぎました  
仕事も「恋」も順調です！

いつものように、いつものホテル

2ヶ月だね。カズw

・・・そっかぁ

ずいぶん時間かかってるな俺

なに？

気持ちの時間だよ

・・・あぁ

アユは平気だよ。

カズのペースで・・・

「平気と言うより、怖いのもありました」

カズは夜景を見ながら話し始めます。

アユ

はい。

俺・・・婚約してたんだ

・・・・・・

「心臓」

・・・婚約って

でも今は、してないよ

話が見えないよカズ・・・

体が震えてるわたし・・・

ちっと待って！カズ・・・

大丈夫か？アユ

少し・・・

落ち着かせて・・・

うん ごめんな驚かせたな

かなり動揺するよカズの話・・・

でも、最後まで聞くからね

少し待つて・・・カズ

うん！！もう大丈夫！

ごめんなさい

続けて！

うん分かった

婚約してたけどな

あの大地震で・・・

ダメになった！

お腹にもう一つの命も・・・

一瞬にして2つの命・・・

俺だけが助かったんだ

「言葉が出なかった私」

地震の二日後には、ここにいた

そう、この部屋だよ。

俺は足をやられてた

足の怪我は、2・3ヶ月で治る

心の方が・・・

で、あの谷川がこの部屋を用意したんだ

病院よりいいやろ！てねw

震災後すぐに迎えに来たよ・・・あいつ！

六本木のおねえちゃん呼んで  
この部屋クラブカズになてたよw

あいつの気持ちすごく分かった

その時、半年くらいここに居たんだよ

夜になると1人でね。

夜景を見て・・・

ちょうど今と同じ感じで

もう1人の俺が映ってるだろ

ガラスに映る俺と話してた

夜景は変わらないけど

もう1人の俺は日々・・・

変わってたよ・・・

こんな事も考えた！

本当は俺の命が奪われて

ここに居るのは現実ではない！！

俺・・・生きてるのか！？

マジで考えたよw

なんか・・・重いなあゝ

こんな話w

ごめんな アユ

「なんて答えれば・・・」

この時、言葉が出ませんでした。  
声も出なかった・・・

こんな事を抱えて生きてる・・・

カズって・・・

大丈夫だよ・・・カズは・・・

ちゃんと生きてるよ！

だって私が・・・

「涙でこれ以上話せなかった」

大丈夫かアユ

抱きしめてくれてました。

ぎゃくだよ・・・わたし

ごめんなさい。泣いたりして・・・

しっかりしないとね・・・

ごめんね・・・カズ

いいんだよw

アユ・・・ありがとう

でもねカズ・・・

大切な話・・・ありがとう。

ずっと、大切にしてくね。

そうだね。アユありがとう。

その時の町はね。

戦争って知らないけど

きつと、こんな感じと思ったよ

まあ、2日後には東京にいたけど・・・

情報は、いろいろ入ってきてたし

良い情報・・・

悪い情報・・・

「ガラスに映るカズの目から涙が」

最悪なのが、そんな町で

ミネラルウォーター - 1本

2000円!!とかで売ってる奴!

人の足元見て・・・

最悪だよ!!

そんな連中見て・・・

俺の仕事も同じと思ったよ

「カズの仕事・・・」

どうして?

例えば自分達に子供がいたとする

パパのお仕事なに?

聞かれても俺は答えようがない！

まともな仕事してたら言えるよなw

・・・うん

アユ 近くにおいで・・・

振り向いたカズの側へ

アユ！

はい・・・

カズは自分のシャツのボタンを少し外します

・・・

するとカズは私の手をボタンに・・・

外してくれ・・・アユ

・・・

私は外し始めました

この時、手が震えてたの覚えてます

・・・



## 第二章 婚約

カズの胸元が・・・触ってごらん

生きてるか・・・俺

私の手のひらにカズの鼓動が・・・

うん大丈夫だよ

そっか・・・

カズはシャツを脱ぎました。

上半身裸のカズ・・・

・・・

抱き寄せられました！

カズの肌の温もり・・・

俺のすべて・・・

アユ

・・・はい

見てごらん夜景

．．．．

私は夜景を見ました。

二人抱き合ってる姿も．．．

映ってる．．．

．．．．

えっ！

全身に何かが走りました！！

．．．カズ！！

何度見ても．．．

カズの背中に．．．

女性の顔が！

なに！？

見えたか アユ？

震えてるよ

「何も聞こえなかった」

そう、刺青！！

カズの背中に刺青が・・・

俺のすべてだよ・・・アユ

「今夜二度目・・・」

これで、すべて話したよ

どうかな・・・アユ

返事出来なくなつたやろ

・・・

これが俺なんだよ

婚約の事

背中の事

アユと今まで過ごした時間

全てが俺なんだ！

ここからの一步はアユの人生！

よく考えてくれ！

進むも戻るも

アユが決めるんだよ！

一度にいろんな事で

心がついてこないだろ

時間かけて考えてな。

そう言うとかズはシャツを着ました。

アユ

俺、部屋から出るから

落ち着いたら帰ってくれ

今、このままでは・・・

心配だし

落ち着いたら帰るんだよ！

カズが出て行きました・・・

どのくらいだろう・・・

その場から動けません！！

気づくと荷物まとめてました。

何も考える事が出来ません

そのままホテルを出てしばらく、歩きました。

どこからか、分からないけどタクシ-で、家に帰りました。

その日からお店も休んでしまい携帯も電源OFFです！

1週間くらいが限界・・・

夜の世界では・・・

これ以上、休むと・・・

こんな時、家族の優しさが身にしみました

両親は、こんな私を見ても

何も言わずに普段通りです。

私が週末、外泊も・・・

週末は食事いらないね。

お母さんは言ってくれます。

水商売に入った時も頑張りなさい・・・

本当に甘えてばかりこれ以上、  
両親に心配かけられません。

カズと進む・・・

カズの事、話せる？

ムリだよ・・・

進んだら、いけない世界

カズの背中！

あの人は、私という時・・・  
優しすぎます・・・  
子供のような目をして・・・

どうして!!

そんなカズなのに!!

私の知らないカズ・・・

どんな目をしてるんだろう

あの目で何を見てきたんだろう

分からないよ・・・わたし

1週間外に出られませんでした。

お店行かなくては!!

携帯・・・電源ON  
「メール、着信、留電」  
いっぱい入ってます

カズからは・・・  
何もありません

・・・お店に出た私

やっぱり、1週間なのに  
すっかり浮いてます！

いろんな意味で早い世界です！

でも、家にいるより・・・

マシかなあ・・・

気持ちがまぎれる・・・

つぶれそうだよ・・・

そんな時トモさんが来ました

トモさんの顔みたら涙があふれました  
しかも、お店なのに・・・

トモさんは私をスタッフルームへ

アユ 何してるの！！

私は、お客で来てるのよ！

それなのに何してるの！

谷川さんから少し聞いたわ

アユとカズさん？の事！

アユ！ 私が命かけて築いたもの・・・

アユには、関係ないのね！

アユが休んでる時にいろんなお客様から  
連絡入ったのよ！

私は、この世界さよならしたよね！

アユこのままお店出るのはやめて！

この世界から離れるか他のお店に移って！

この事を言いに来たのよ！！

今のアユには恋愛も仕事も出来ない！

病気で入院って事でスタッフに伝えるよ

いきなり、いなくなる事は出来ないでしょ！

分かったアユ！

返事出来ませんでした・・・

そのままトモさんに連れられて  
お店を出ました。

アユとカズさんに何があったのか知らない！

中途半端は！やめなさい！

じゃあね。アユ

すみませんでした・・・トモさん

明日からの事は、自分で考えなさい！

私・・・

何してるの？

トモさんの大切な・・・

気持ちがまぎれる・・・

バカな事、考えてた

仕事も失った・・・

信頼も・・・

みんな・・・失った

また家に閉じこもりました。

お店は、病気で急遽やめる事に・・・

トモさんが手を回してくれてました。

お母さんは、何も言わずに少しでいいから  
ご飯食べなさいよ。いつも笑顔です。

ここにいても心配かけてしまう

どこかに行こう・・・

私はカズがいる神戸へ向かいました。

もちろんカズの居場所など知らないし、  
逢う気もなかった。

ただ、もうひとりのカズが、目にしてる  
ものを見たかったのです。

カズとの事を考えよう！

はつきり、しないと！

何も知らない町・・・

少しどこかのホテルで過ごそう  
でも、両親には連絡しました。

楽しんでね！ただ一言でした。

「ありがとう」

24時間考えましたカズの事を！

ほかに何も考えずに！

カズが暮らしてるこの町で

週末になるとカズはいないのかなあ？

そんな事も考えて・・・

でも、カズってなぜ週末は東京なの？

考えた事ありませんでした。

仕事で・・・違う！

いつも私と一緒にだった。

何をしに来てたんだろう？

始めて何かが見えたような気がした。

もう一度逢ってこの事を聞きたい！

私と会おう前から・・・

なぜ東京に？

帰ろう！！

帰って連絡してみよう。

### 第三章 女性

無駄にならなかったような気もしました。  
何も決められなかったけど！

カズに連絡を・・・

なかなか出来なかったのでメールをしました。

話しは・・・

きつと、出来ないだろうと思い・・・

その日の夜、返事が来ました。

「明日いつもの部屋で待ってる」

週末じゃ・・・ないのに・・・

もう一度メール・・・

どこにいるの？

今は京都だよ・・・

明日って週末じゃないよ。

カズからの返信来ませんでした。

かなり頑張つて家を出ました。

食事は、いらないの？

・・・返事できません

分かったよ。「いつてらっしゃい」

お母さん・・・ありがとう。

ホテルに着きフロント前へ

スタッフさんが・・・

「お帰りなさいませ」

ビックリしました！

私のこと覚えてるんだあ

すごい、お仕事です！

でも、なぜかホッとした。

50階扉が開く・・・

緊張・・・

部屋に向かいます・・・

部屋の扉を開けてカズが待ってます！

なぜ・・・？

私が来るの分かったの・・・

そっかぁ！

スタッフとカズの連携だ！

ここのホテルは・・・

おかえりアユ

・・・

優しい目をしてるカズ

なんて言えば・・・

・・・はい。

どうした？その顔はもつと、  
アユらしい顔見せるよ。

・・・カズ

まあ久々の乾杯しよかあ

「あまりにも自然にしないでよ！」

アユ話をしに来たんだろ？

まずは落ち着いて大切な時間なんだからね。

・・・うん

そうだ！中途半端はダメ！落ち着こう

昨日さあ、京都で飲んでてな「じじい」  
ばっかりで疲れたよ

・・・そうなんだ

あつ！週末じゃないのに、よかったの？

うん！問題なしだよ！

カズは、昨日の出来事を楽しそうに  
話してくれました。

私を気遣って！でも、落ち着けました。

・・・カズ

ん・・・なに？

私ねカズの話聞いて・・・

うんうん

そうだ！！アユ

バスルーム行こう

足湯しよっ！

おいでアユ

・・・

・・・うん

始めての時もこんな感じやったなw

・・・そうだね

ごめん。続き・・・

・・・うん。

カズの話聞いてね凄く驚いたよ。

婚約の話は受け入れたよ。

うん。

・・・でも

そっちなあアユ

背中のは・・・

違うよな!!

結局は、極道やしな!

・・・

「そんな、はっきり言わなくても」



## 第四章 眞実

でもなアユ極道って言っても  
どこかの組とかじゃないよ。

・・・ん？

どう言うこと？

何々組とかあるやろ

・・・うん。

そんなのは、ないで！

ん・・・そやなあ

カズ組かなあw

よく分かんないよ・・・

ん・・・そやなあ

刺青イコール極道

この常識は、捨てて！

難しいかもなw

この背中のは

ずいぶん若い時に入れたんだ

ある極道の人に憧れて

同じものを入れたかったんや

その人と約束があつて

刺青はいいけど組には入れない！

これが条件やったんや！

で！俺と、もう一人だけ入れた。

ああ・・・谷川じゃないよ。

俺の一番の親友ね！

なんか・・・難しいなあ

聞いてても分からんやろ

うん・・・

でもな組に入ってないけど

やっぱり・・・同じかな

してる事は・・・同じかも

いろいろとお金が必要やろ

裏の世界でも。

だから俺のところに来てな

お金を作るんや。

簡単に言えば極道が俺の仕事のお客って事！

分かる？

・・・

じゃあ、カズは極道じゃ・・・

ないって事？

どうだろう・・・

それは、俺を見てそれぞれが判断してるよ

そうそうアユ

法律違反は、しないよ俺はね。

あの人達にとっては、大事な存在かな？

いろいろと、してくれるから

運転手とか、送り迎えとかもw

そんな時、見たら極道さんでしょうw

背中のもものも、その人の生き方に憧れた

極道に憧れた訳ではない！

まあ、これは俺だけの常識であって

世間では、誰も認めないけどね！

おお！俺が話してたw

・・・ごめん

アユの話、聞かないとな

うん・・・よく話してたよ力ズッ

「でも少し楽になってた私」

あのね、カズ週末何しに来てるの？

・・・そうやなあ

自分を見失わないように東京に来てる  
向こうだと、知り合いとかいるし  
落ち着けないからリセットしに来てるw

稼いだお金もね！全部捨てに来てる！

・・・後はアユに逢いに来てるw

・・・もう

「少しだけ笑えた・・・わたし」

そうだったんだその時間をね・・・

そうでしたよ！アユっ

で！次は？

ええ・・・ないっ

ないの？アユ

・・・うん

いろいろ考えたけどね・・・  
どうしたらいいのかわからないの・・・

・・・そうやなあ

アユの小さな心・・・いつぱいにしてもうた

ごめんな。こんな事、本当は考えなくていい事  
やのになあ

でもねカズ

今の話聞けてよかったよ

まだ理解出来ないけど、よかったよ。

息できたから・・・

苦しかった・・・

本当に・・・

そっかぁ ごめんなアユ

かなり冷静なアユになったかな？  
うん・・・そうだね。

よかった！今のアユで答えをだして！

・・・

ダメ・・・出ないよ！

カズは？

ん？

カズは、どうなの？

アユと離れられるの？

「なんで聞いたのわたし・・・」

俺かぁ・・・

答えは、あるよ！

そうなんだ・・・

「怖い・・・」

いいのか？

俺の答え言って！

・・・

アユは何を一番悩んでる？

難しいよカズっ

そうだな！

でもねカズ・・・今日  
はつきりするの！

もう、これ以上苦しみたくない！

みんなにも心配かけられない！

そうだね！ み・ん・な

トモにもだよ！

えっ！！カズ知ってるの・・・

お店やめたのも！！

なんで・・・

トモに聞いたからだよ。

アユって首に何かつけるの苦手らしいなw

なのに、俺のお守りつけてた！

トモが言ってたよ。お店行った時  
ネックレス見たってね。

本当は絶対につけないんだろ！

それ見てトモが連れ出したわけ。

怖かったやろ・・・アユw

・・・うん

だから、アユが頑張ればいつでも  
お店は戻るよ。

でも、本当に病人にされてるよw

退院まで待っててね

トモが復活してるよ！

そんな・・・

トモさんが・・・

カズっ・・・

・・・

## 第五章 極道

いいよ泣いてアユ！今まで頑張ってたんやろ

・・・うん

結局・・・

私は・・・

皆に・・・

守られてた・・・

カズにしがみついて  
いっぱい涙流しました。

トモとは、谷川と何度かあった事あるんだ

あまり話は、しなかったけどねw

アユと知り合う前だよw

今回のことは、谷川とトモに感謝するんだよ。

俺は、何も言っていないよ。

落ち着いたら、お礼しないとな。

うん・・・分かった・・・

アユ

俺との事は、どうする？

・・・

俺の気持ちを言えばいいか？

・・・

でも、カズにさよなら言われる・・・

ついて来いって言われる・・・

どちらも返事出来ないのでは？

どうするの・・・私

アユ聞いてくれ俺はアユとの  
時間を無くしたくないよ！

これが答えだよ。

嬉しかった・・・

素直に・・・

俺の気持ちは変わらない

ただアユが苦しむのなら

俺は、消えるよアユの前から

今日は泊まって！

仕事の事も、ちゃんと考えて！

はつきり、しないとな！

俺は別の部屋に行くからひとりで考えてな。

カズは部屋を出て行きました。

ひとりの部屋は広くて淋しい  
カズもこんな時間を過ごしてたんだ

ガラスに映る・・・私

もうひとりの・・・私

話しかけてみよう

いろんな話をしました。

答えては、くれないけど

カズも話してたんだな

・・・

この時、私の感じたことは

「孤独」

カズって・・・

すごく淋しい人

自分にしか見せない

弱いところ・・・

可愛そうな人

カズこそ・・・いっぱいになってるよ！

カズの心・・・

少しくらいなら私にも・・・

出来ることあるよね・・・

こんな部屋でひとりには！

させられない！！

「私が貴方を守る」

ごめんなさい・・・

おかあさん・・・

最後にするから・・・

心配かけてしまうのは。

少し嘘もつきます・・・

許してね・・・

もう！迷わない！

カズについて行く

何があるか・・・

分からない世界だけど

カズを信じていく。

「カズに逢いたい！連絡をしよう。」

もしもしカズ

はいよ～

どこの部屋にいるの？

早く帰ってきて

うん。決まったのか？

決めたよ！

じゃあ・・・向かうよ

少し待っててな

いいけど・・・なぜ？

そのホテルには、いないよ俺

ええ・・・

他の部屋って言ってたじゃん

ああ・・・

なんとなく、他のホテルにしたあww

笑うところじゃ・・・ないよ！！

早く着てね！

充電切れちゃうぞ！

www

了解だよ！アユ

気持ちは決まりました！  
全力でカズに飛び込む！！

扉開いたら・・・

カズに飛び込んで行く

私の気持ちを伝えよう

ヨシヨシしてもらおう

ギュ！ってもらおう

・・・

扉・・・

早く・・・

開いてよ・・・

・・・

しばらく」にちめっ」

扉と・・・

遅いから！

扉がああああ開いた！！

よし！！

カズっ・・・

・・・

お土産っw

凄くいっぱいなの・・・

カスミソウ・・・

アユっ前見えないw

「カズのパンチに負けた・・・」

どうしたの、こんなに！

あるだけ購入した〜

アユの好きな花とか分らんから

白って言ったら、これ出てきたんだ

後の白い花は少なかったのでww

「カズの攻撃に負けてしまった・・・」

白い花に、ふたりで色を付けて行こう！

なっ！ アユ

・・・

はい。。

私の攻撃は・・・

## 第六章 電草

カズの行動、言葉ではダメ！

私の言葉でも伝えよう

カズの側にいて・・・

いいですか？

うん。いいよアユ

ゆっくり進んで行こうな

俺の心の「カギ」

アユに渡しておくから

もう、ダメと思ったら

そのカギを捨てて

わかったな アユ！

・・・はい。

じゃあ、アユの「カギ」も・・・

それは、いやw

なんでよ

なんでもや！

アユが2つの「カギ」持ってる！

分かりなさいw

ん・・・

でも、私の彼氏だよね？

うん俺の彼女さん！だよねw

うん。

ここからは、若い私のペースです！  
ずいぶん困らせました。

カズー 携帯かしてw

ほい

ふふふ ペタッ。。

なにするねん!!!!!!

プリクラ貼ったw

絶対に取ったらダメだよ!

約束・・・ね。

ムリ!!!!

オソロのパジャマ買いに行こうね。

ムリ!!!!

いろいろ言っただけど返事は

ムリ!!!!

ばっかりです!

アユお店どうするねん？

そうだった・・・

カズは、どう思う？

どう・・・って？

私の仕事・・・

理解してるよ

俺は、まったく気にしないよ

きつと、カズはそう答えると思ってました。

ただ、私が出来ないと感じてたのです。

カズとの付き合いの中でお店を今まで  
通り出来ないと・・・

中途半端になりそうです！

カズの仕事が、そう考えさせたのですが・・・

・・・私

辞めてもいい？

ん・・・俺に聞くなよ

アユが決める事やろ

ずっと、カズの時間でいたい

貯金もあるし

ねえ・・・いいでしょ？

アユがいいなら、いいよ。

ちゃんと、お別れパーティにするから

最後はホステスとして「さよなら」するから。

分かったよ。でも、貯金はそのまま

俺の貯金で！これ、絶対条件！！！！

ええ・・・それは

ムリなら、すべてムリ！！なっ！アユ！

・・・

勢いに驚いた・・・

次の日、カズは帰りました。

私もお店に戻り最後の準備を始めます。

トモさんに話をして・・・

いっぱい「ごめんなさい」

やっぱり、お姉さんです！！

カズの事も相談に乗るよ。

「力強い言葉」

誰にも相談出来ないと思ってました。

でも、誰にも甘えない！

お店を辞めるまで1ヶ月

最高のホステスになってやる！

カズとの約束・・・

ラストの日まで・・・

逢わない・・・

淋しいけど・・・

頑張れる！

ラストの日は、すぐにやって来ました。

今日で最後と思うと複雑です。

結婚した訳でもないのに・・・

今夜はカズ来てくれるかなあ？

お花もいっぱい届きました。

お客様に感謝ですう！！

谷川さん登場・・・

よう！アユ最後だね。

はい。ありがとうございました。

頑張るなよ！

何をですかw？

カズとの事だよ！

．．．．．

どうして．．．

全てを知った訳でもないだろ

これからは、いろんな事が

アユを驚かすよ。

普通の世界じゃ．．．ないから。

いろんなカズ見ると思っから

頑張るなよ！

谷川さんの言葉は．．．

すごく重かったです．．．

結局カズはお店には来ませんでした。

電話だけで・・・

ホテルで待ってるから、ゆっくりしなさい

皆とゆっくり最後を楽しみなさい

俺たちは、ずっと一緒にいられるやろ

ありがとう。カズ・・・

その日は、朝まで騒ぎました。

早く帰りたいと思いながらも楽しい時間です。

みんな、ありがとう　　> <

朝のホテル・・・

この姿は・・・

恥ずかしいです。

完全に「お水」

目立たないように

そおつくと・・・

でも、目立つよ　> <

「お帰りなさいませ」

変身してるのに・・・

スタッフさん・・・

やっぱり、すごい・・・

部屋に帰るとカ&amp;#12316;お疲れ様

カズは眠そうな顔です。

お帰り&amp;#12316;お疲れ様

ただいま。

寝てなかったんだ

ごめんねカズ

いいよ。眠れなかったw

だつて、寝顔見られるやんw

ええ& a m p ; # 1 2 3 1 6 ; w w

写メしてあげるよw ね。カズっ

はいはい。

シャワーでもして来たら

うん。分かった& a m p ; # 1 2 3 1 6 ;

アユ& a m p ; # 1 2 3 1 6 ;

なに？

覗いてもいいかww

・・・

どうぞ& a m p ; # 1 2 3 1 6 ;

一緒に、入ってもいいよアユはw

あっそ

・・・

ふふ  
勝つ  
た。  
。

## 第七章 最後の日

シャワ・すましてカズの側へ

アユ 卒業おめでとう

あははw ありがとう。

カズが私を抱きかかえた・・・

「お姫様抱っこ」

ベットル・ムへと・・・

今日からは、ひとつのベットで眠るからね。

いいだろうアユ

・・・うん。。

ふたりでひとつのベット・・・

やっぱり、ちよづとに

カズの体にも、触れている・・・

もの凄く幸せな時間です。

なあなあアユ

・・・なに

俺、寝相悪いからねっ！

いびきとかもw

眠れなかったら隣へ・・・

どおぞっw

ああゝ 眠い・・・

アユ おやすみい

・・・

幸せな時間・・・

だったのに >  
<

こうして私達は新たな一步を進みました。

週末は、ずっと一緒です！！

それ以外は、出来るだけ

今まで出来なかった事

両親との時間を作りました。

ここまでは、普通のお付き合い？

これから始まるさまざまな事など

まったく、感じてませんでした。

幸せすぎる時間を過ごしていました。

まだ、一度も結ばれてないけど・・・

とても、幸せでした・・・

ガラスの翼 I Love つづく・・・

## 第七章 最後の日（後書き）

感想など頂ければ、続きを書こうと思ってます。

宜しくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2352d/>

---

ガラスの翼

2011年1月15日16時20分発行